



社協職員日記『そばにいてくれることの大切さ』

最近読んだとある本のお話です。「孤独だった学生が、子どもたちと遊ぶボランティア活動に行き、どうしたらいいかわからず座っていたら、一人の子どもがそばに寄りかかってきて、そっと手を重ねてくれた。すると暖かい気持ちが全身に広がり、一瞬にして心が救われた。」そんなお話です。「孤独によって苦しんでいる人がいるとしたら、その人は、誰かが横にいるということだけで救われるのだろう。」と、その本の筆者は述べておられました。

このコロナ禍で“孤独”を感じている人は、たくさんいるのではないかと思います。一人でも多くの方に、少しでも“そばにいるよ”、“ひとりじゃないよ”と感じてもらえる、そんな地域づくりを地域の皆様と一緒に進めていきたいと思っています！(^^)/

ということで、“ほのぼの”第2号、ぜひご一読ください！



手作りのお飾りで明るい新年を！

記事担当
(よこた)

昨年12月19日(日)三和町菟原下一自治会区民講座が開催され、正月のお飾りづくりをされました。この講座は、例年約3回、地域住民の交流の場として、苔玉づくりや山野草の寄せ植えなどを実施、その中でも、「地域の風物詩～正月のお飾りづくり～」は、平成22年から開催されており、今回で11回目となる区民講座のメインイベントで、例年約40名の地域の方々が集い、自分で作ったお飾りで明るい新年を迎えてもらおう！との想いで講座を続けてこられました。

「正月のお飾り」と言えば、藁がないとできません！その藁を確保するために、9月末の稲刈りから地域力を発揮！もち米を作っておられる方の協力を得て、150束以上の藁をバインダーで刈り、コンバインで脱穀し、軽トラ3台分の藁を旧酒蔵に設けた稲木へ…。この作業中、バインダーの調子が悪くなり、稲の結束ができなくなったり、バインダーに縄を設置するのに一苦労…(;’▽’)その状況を見かねた大ベテランの方からのアドバイスにより、スムーズに作業が進んだ！と苦労された中にも思い出に残る出来事もあったようです。

コロナの影響で自粛されていた活動も、9月から準備されていたお飾りづくりだけは何とか開催したいと検討され、「これまでの経験を生かし、自宅で作ってみましょう♪」と呼びかけ、当日、午前11時から公民館で藁や飾りつけの御幣などの材料お渡し時間を設け、約30名の方が来られました。また、どうしても一人では不安な方のみ、館内で講師指導のもと、お飾りづくり(12名参加)をされました。

当日も朝早くから自治会役員さんなど10名で、乾燥した藁を酒蔵から持ち出し、公民館へ…。藁束の先端を押切りでカットし、その束を何度も太ももに打ち付け柔らかくし、無駄な藁を取り除くなど、大変な作業も地域の繋がりのためにと、笑顔で楽しく進められていたのが印象的でした。

訪れた地域の方々からも、「よい藁やなあ！」「頑張って作ってみるわ！」など、感謝の言葉を交わしながら、楽しい一時を過ごされていました。コロナ禍で、人が集うことの難しさを感じ、新しい生活スタイルに戸惑いながらも、地域の方々の繋がりを大切にされている心温まる活動でした。(^^)/



大変な作業も楽しく！



若い世代に技術を伝授！



明るい新年の願いを込めて！

集まれなくても繋がりがあえる！

記事担当
(たけもと)



今回は、ある地域の民生児童委員さんの活動について、素敵なお話を聞かせていただいたので、皆さんにご紹介したいと思います。(*'▽')

これは、川北自治会の民生児童委員さんのお話です。この方が民生児童委員に就任されたのは、令和元年12月のこと（現在1期目）。民生児童委員さんの活動の1つとして、ひとり暮らし高齢者宅への見守り訪問があります。そこに、素敵な繋がりを感じる工夫をされていました！

その工夫とは、訪問される際に「川北いきいき便り」というオリジナルのお便りを作られていることです。内容は、民生児童委員さんからのメッセージや地域の方のお声が掲載されています。この地域の方のお声は、事前に民生児童委員さんが個別に声をかけられ、原稿をお願いされているようです。

そして、実はこのアイデアの発案は、訪問先での世間話がきっかけだったとのこと！ある日、訪問先の方が、「最近コロナで集まったりできないから、みんなどうしてるのか分からへんなあ。何かお便りとかで、今の近況を伝え合えたら嬉しいなあ」というような話があり、民生児童委員さんはこの話をきっかけに動き出されました。

便りを出したあと、「私もみんなにメッセージを届けたい♪」など、ご自身も予想していなかった思わぬ反響があったようです。きっと皆さん、誰かに話をしたい、話を聞いてほしいと心のどこかでいつも想っておられるんでしょうね♪

コロナ禍の中、みんなで顔を合わせてのおしゃべりは難しいけど、離れていても繋がりがあえる方法はあるんだなと感じる素敵な活動だと思いました。きっと繋がりがあう方法は一つじゃない、それぞれにできる形で、繋がりがあればいい。そんな自由で多様な地域の活動を、社協としても応援していきたいと、強く感じたお話でした。(^-^)



川北いきいき便り。サイズはA3。



“繋がり”を大切に活動されています♪

ふれあいいきいきサロンを応援します！



社協では、地域の高齢者や障害のある方、子育て家庭の親子などが気軽に集い、顔の見える関係づくりや安心して暮らすことのできる地域づくりを目的に、地域の皆さんが主体的に取り組まれている「ふれあいいきいきサロン」という活動を支援しています。

令和3年2月現在で、市内全体で157サロンが社協に登録をいただき、それぞれの地域で活発に活動をされています。社協では、そういったサロン活動に関する活動費の支援や立ち上げ・運営に関する相談、レクリエーション用品の貸出など、サロン活動を支えていけるよう努めています。

社協に登録いただくサロンとして、参加者が5人以上であることや自主的な運営による地域福祉の推進を目的とすることなど、簡単な要件を設けています。「これまでこんな活動をしてたんやけど、サロンになるん？」や「これからこんなことしてみたいんやけど、サロンにできるかな？」など、関心があれば、ぜひまずは社協までご相談ください！(^^)/

さらに、令和3年度については、これまでの公民館や集会所などで集って交流する形だけでなく、新型コロナウイルスの影響も考え、見守りを兼ねた訪問活動（例えば、世話役で手書きのメッセージカードを作り、対象者宅へお届けするなど）についてもサロン活動の一環として捉えさせていただき、活動費支援の対象となるようにさせていただきます。

市内のサロン活動は、それぞれの地域の身近な居場所として、地域の皆さまにとって大切な活動として広がっています！社協としましても、そのような活動を今後も引き続き応援していきたいと思っています。皆さんと一緒に“たくさんの人と人が関わりあう”地域づくりを進めていきましょう♪(*'▽')



サロン活動の基本は楽しむこと(^^)



訪問活動という新しい繋がりの方も♪

発行

福知山市社会福祉協議会

〒620-0035 福知山市字内記10-18

TEL:0773-25-3211

FAX:0773-24-5282

メール:fuku-shakyo@coral.broba.cc

